

1992年 地球化学研究協会学術賞および 研究助成の候補者推薦

標記の依頼が下記のように、日本天文学会へ届けられましたのでお知らせします。

三宅賞

1. 本賞は地球化学に顕著な研究業績をおさめた科学者に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副牌および賞金(30万円)をそえます。
3. 本賞の贈呈は、1年1件(1名)とします。
4. 規定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)、主な論文10編程度に略歴をそえて、協会事務所までお送り下さい。

研究助成

1. 研究助成は地球化学の研究者で、海外のシンポジウム等に出席し論文を発表する者、ならびに海外における学術調査研究などに参加する者に対して行なわれます。
2. 助成金は1件10万円とし、年に3件とします。
3. 規定の用紙に推薦候補者(各締切日において満40才迄とする)のシンポジウム出席については略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、開催年月日)、論文題目、推薦理由等を、海外学術調査に関しては、略歴、研究業績、調査地(国名、地域名)、調査目的・計画、推薦理由、同行者などを記入して、協会事務所までお送りください。

三宅賞の贈呈および研究助成者の発表は、1992年12月5日(土)、東京で行ないます。

申込締切日は、三宅賞は、1992年8月31日(月)、研究助成は、第1回締切1992年8月31日(月)、第2回締切1993年1月末日。

地球化学研究協会

166 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217

電話 03-3330-2455 (FAX 兼用)

東レ科学技術賞・研究助成について

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。

なお応募用紙は6月下旬に天文学会へ配送されることになっています。

I. 東レ科学技術賞(概要)

1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1)学術上の業績が顕著なもの
 - (2)学術上重要な発見をしたもの
 - (3)重要な発明をして、その効果が大きいものの
 - (4)技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2. 科学技術賞……2件前後、1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円
3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内
4. 学会必着日……平成4年9月25日(金)

II. 東レ科学技術研究助成(概要)

1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる**独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者**、またはそのグループ。冒険的な研究も対象とする。
2. 研究助成金……総額1億円前後、10件程度。1件当りの金額はとくに定めず、必要と認められる場合には最大3,000万円程度まで助成する。
3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内
4. 学会必着期日……平成4年9月25日(金)

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さいますようお願いいたします。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

国立天文台光学赤外線天文学分野教官

1. 教授1名
2. (1) 光学赤外線天文学研究系
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了またはそれと同等以上
7. ①履歴書②研究歴③論文リスト及び主要論文の別刷（共著の場合はその役割分担）④自薦の場合は研究計画と本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先⑤他薦の場合は研究計画も判るような推薦書（必要に応じ、被推薦者に資料を請求することがあります。）
8. 1992年6月1日（月）必着
9. (1) 181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
(2) 181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 小平桂一（TEL 0422-34-3601）
10. 封筒に「光学赤外線天文学応募書類」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。
11. 国立天文台の光学赤外線天文学分野では、すばる望遠鏡の建設に中心的役割を果たす一方、観測装置等の開発に力を注ぎ、岡山・堂平の共同利用観測所の運用に当たり、太陽系天体から恒星・銀河にわたる観測的研究を行っています。大学共同利用機関としての本天文台の任務を十分に理解し、既存分野にとらわれずに天文学研究の多面的な発展に積極的

な役割を果たすことを通じて、すばる計画に寄与する人を期待します。

国立天文台太陽物理学分野教官

1. 教授1名
2. (1) 太陽物理学研究系
3. 4. 本台太陽物理学研究系では、太陽の研究を中心に、それに関連した恒星物理学等の研究を行っています。現在、太陽X線衛星「陽光」により画期的な成果を出しつつあり、またフレア望遠鏡・コロナグラフ等による研究を進めています。これらの研究を積極的に進め、かつ次期衛星計画、地上望遠鏡計画を推進するにあたり指導的役割を果たすことのできる方を希望します。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了、又はそれと同等以上
7. ①略歴書②研究歴③論文リスト及び主要論文別刷④自薦の場合、研究計画、及び本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先⑤他薦の場合、推薦書
8. 平成4年6月1日（月）必着
9. (1) 〒181 三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
(2) 国立天文台太陽物理学研究系 平山淳
(TEL 0422-34-3701, FAX 0422-34-3700)
10. 封筒の表に「太陽物理応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。
11. 選考は国立天文台運営協議員会において行います。

人事公募結果

理化学研究所研究員

1. 公募掲載：1991年12月号
2. 氏名：三原建弘
3. 前所属：東京大学大学院理学系研究科博士課程
4. 着任時期：1992年5月1日

電波ヘリオグラフ完成・宇宙電波観測所 10周年記念事業

国立天文台野辺山では、1990、91年度の2カ年で建設していた大型装置——電波ヘリオグラフ——が今年3月に太陽電波観測所に完成しました。また、宇宙電波観測所は45m電波望遠鏡とミリ波干渉計が完成し開所してから10年を迎えます。この2つを記念して、関係の方々を招待して来る5月29日(金)に野辺山で記念式典を行い、電波ヘリオグラフの建設および宇宙電波観測所の建設とその後10年間の活躍に貢献した方に感謝状を贈ります。また、完成した電波ヘリオグラフは、昨年宇宙科学研究所から打ち上げられたX線観測衛星「陽光」とともに太陽フレアのメカニズムを解明する上でこれまでにない重要なデータを提供することが期待されており、さらに今後の10年間に野辺山はVSOP計画や大型ミリ波干渉計(LMA)、サブミリ波衛星計画など、世界の電波天文学をリードする計画の実行を目指しています。そこで今回の事業は過去10年を振り返るだけでなく、今後10年のさらなる野辺山の発展を期する節目とします。

記念事業としてこのほかに建設の記録や開所以来の研究発表論文のリストを含む出版や、電波天文を唱った絵本の出版(市販)、野辺山観測所の紹介ビデオ、宇宙電波観測所の建設記録ビデオ、電波ヘリオグラフの建設記録ビデオの製作などを行います。これらの絵本、ビデオ等は野辺山の見学室(毎日9:00-17:00一般に公開されています)と毎年9月23日に行われる特別公開で順次見られるようにするほか、貸出なども行う予定です。(問合せ先:

国立天文台野辺山 鷹野 0267-63-4487)

第3回計算流体力学シンポジウム

開催要項と論文募集

下記の通り第3回計算流体力学シンポジウムを開催します。多数の御参加をお待ちしています。

1. 主催：日本流体力学会
2. 協賛：応用物理学会、可視化情報学会、土木学会、日本機械学会、日本気象学会、日本航空宇宙学会、日本天文学会、日本物理学会
(五十音順)
3. 開催日：1992年7月31日(金)～8月1日(土)
4. 会場：東京大学山上会館会議室
〒113 東京都文京区本郷7-3-1
TEL 03-3818-3008 (直通)
5. 発表形式：口頭発表によるセッションのみ。ただし、ビデオ等のビジュアル機器は発表者の要請があればできるだけ準備します。
6. 申込方法：所定の申込票(はがき)と論文要旨用原稿用紙を用いて下さい。原稿はそのまま縮小して「論文要旨集」をつくります。発表責任者(登壇者)は日本流体力学会会員であることを要します。詳細は下記にお問い合わせ下さい。
7. 申込締切：1992年6月1日(月) 必着
8. 参加登録費：シンポジウムに参加される方は当日会場で参加登録費：会員(協賛学会会員を含む)3,000円、非会員4,000円、学生会員2,000円、同非会員3,000円(論文要旨集の代金を含む)をお支払い下さい。

9. 連絡先：講演申込および郵送による予約受付、申込用紙等の請求、入会申込、その他本シンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

〒152

東京都目黒区原町1-16-5

日本流体力学会計算流体力学

シンポジウム係

TEL 03-3714-0427

FAX 03-3714-0434 (直通)

後援：トヨタ財団・日本天文学会

参加者：自然科学分野の研究者など約150人

プログラム概略

6月25日(木)

セッションA 国際研究計画の現状

10時30分～12時30分

座長：池内 了(天文学研究連絡委員会委員、
国立天文台教授)

○天文学

安藤 裕康(国立天文台教授)

○地球物理・環境科学

山中大学(京都大学超高層電波研究
センタ講師)

○宇宙科学

西田 篤之(宇宙空間科学研究連絡委
員会委員、宇宙科学研究所
教授)

○高エネルギー物理学

小柴 昌俊(東海大学理学部教授)

○核融合

関口 忠(横浜国立大学工学部教授)
(各分野の個別計画の内容についてはポ
スター展示を検討中です)

セッションB 科学の国際共同の諸課題

14時～17時

座長：奥田 治之(天文学研究連絡委員会委員、
宇宙空間科学研究連絡委員会
委員、宇宙科学研究所教授)

○各計画が抱える問題点のまとめ

小平 桂一(天文学研究連絡委員会委
員、国立天文台教授)

○外国における科学の推進体制と国際共同

釜江 常好(物理学研究連絡委員会委
員、東京大学理学部教授)

○我が国における科学の国際共同の

制度的課題

光田 明正(国際交流基金理事)

シンポジウム 国際化時代の科学

科学は本来優れて国際的であり、世界的な交流の中で発展してきたものですが、現代における科学の急速な発展と、日本の国際社会における役割の増大は、日本の科学に大きな転換を迫っています。

とりわけ基礎科学分野では、国境を越えた新しい活動様式、組織的・長期的な国際協力の体制が求められており、我が国における国際対応の立ち遅れや法制的不備の改善が急務となっています。天文学・宇宙科学の分野では、ハワイに建設する8m光学赤外線望遠鏡「すばる」をはじめ、新しいタイプの国際共同プロジェクトが数多く推進・計画されています。

同時にこうした科学研究の国際化が急速に進もうとする中で、我が国における基礎科学分野の研究体制の貧困が指摘されています。

このような問題に関心を持つ各界・各分野の人々が一堂に会して国際化時代の科学の在り方について意見を交換し、日本の基礎科学の新しい展望を開いていくための端緒ともすべく、本シンポジウムの開催を計画しました。

日時：1992年6月25日(木) 26日(金)

場所：日本学術会議講堂(東京都港区青山)

主催：日本学術会議天文学研究連絡委員会

6月26日(金)

セッションC 国際化時代の科学に求められるもの

9時30分~12時30分

座長：海部宣男(天文学研究連絡委員会委員，国立天文台教授)

○前日のまとめと問題提起

杉本大一郎(日本学術会議第4部会員，天文学研究連絡委員会委員，東京大学教養学部教授)

○パネルディスカッション

司会：

杉本大一郎(日本学術会議第4部会員，天文学研究連絡委員会委員，東京大学教養学部教授)

パネラー：

海部宣男(天文学研究連絡委員会委員，国立天文台教授)

立花隆(評論家)*

釜江常好(物理学研究連絡委員会委員，東京大学理学部教授)

飯島宗一(トヨタ財団理事)

伊達宗行(大阪大学理学部教授)

他(行政関係者など)*

セッションD 我が国の基礎科学研究体制の展望
14時~16時

座長：小平桂一(天文学研究連絡委員会委員，国立天文台教授)

○国際化時代を迎えた日本の科学の

基礎整備(講演)

有馬朗人(日本学術会議第4部会員，物理学研究連絡委員会委員，東京大学総長)

○総合討論

*交渉中(1992年3月現在)

日本天文学会評議員の候補者名簿

1992年(平成4年)通常総会に推薦される評議員(任期：1992年~1996年)の候補者には次の方々が選ばれました。

池内 了	加藤 正二	古在 由秀
小山 勝二	阪本 成一	佐藤 文隆
杉本大一郎	祖父江義明	田原 博人
谷口 義明	中島 潤一	長谷川哲夫
藤本 光昭	森本 雅樹	若松 謙一

なお、有権者は878名で、投票者数は229名(内無効1名)、総投票数は2282票(内白票数289、無効票数17、有効票数1976)でした。

1992年2月12日 第9期選挙管理委員会

羽根田利夫氏の訃

本会会員羽根田利夫氏が、1992年3月8日に83歳で死去された。氏が69歳で発見された周期6.28年の羽根田-Campos周期彗星(1978j)は、最初の、しかも眼視による新彗星発見としては、おそらく最高齢であったろう。氏は同彗星の発見後も眼視による搜索を続けられていた。そして、同彗星の発見記を「羽根田-カンポス彗星発見記」として週刊誌上に発表され、第3回週刊読売ノンフィクション賞を1979年3月11日に受賞されている。なお、同彗星のその後の回帰は検出されていない。氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(1992年3月10日 香西洋樹)

訃 報

本会元副理事長の長沢進午氏は、3月4日午後1時30分心不全のため、逝去されました。享年82歳。

謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。